

<研究名称>

転移性尿路上皮癌に対するペンブロリズマブ治療の多施設共同後ろ向き観察研究

<実施責任者>

泌尿器科 堀田 裕

<研究期間>

2018年1月1日から2019年2月4日の間の症例

<研究の目的・意義>

転移性尿路上皮癌に対する治療はシスプラチンをベースとした多剤併用抗癌化学療法が標準的治療とされてきた。一方で標準的化学療法である gemcitabine cisplatin 療法では全生存期間は13か月程度と報告されており、予後不良である。さらに2次治療は確立されていなかったが国際共同第三相試験である KEY-NOTE45 試験を受け免疫チェックポイント阻害剤であるペンブロリズマブ（キイトルーダ）が本邦でも標準的2次治療として承認された。本研究は、転移性尿路上皮癌に対するペンブロリズマブ治療による治療効果および副作用を検討するとともに、臨床的な課題である副作用対策の現状や放射線治療の併用状況を多施設において検討することを目的とする。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

上記研究期間でペンブロリズマブ治療を開始された症例を対象とする。本研究は札幌医科大学泌尿器科学講座およびその関連施設が参加するのである。本研究責任者、分担者が対象患者の臨床情報等を後方視野的に確認し、札幌医科大学泌尿器科学講座に匿名化して保存する。これらの情報を集計しデータ解析を行う。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

泌尿器科 部長 堀田 裕  
副部長 宮本 慎太郎  
医師 桐澤 崇宏

<実施場所等>

泌尿器科外来

<ICのための説明・同意に関すること>

同意書あり

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 泌尿器科 堀田 裕

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648